

資料2

令和3年度 ひきこもり支援ネットワーク会議（報告）

1. 目的

社会全体のつながりが希薄化する中で、孤立・孤独の問題が一層顕在化し、特にひきこもりは子どもから成人まで広い年代にわたって問題となっている。わが国のひきこもり状態にある方は、内閣府の調査で100万人を超えると推計され、市の実情に応じてひきこもりにおける支援体制整備を構築していくことが急務となっている。清須市では各部署や団体がそれぞれに、様々な支援を行っているため、連携し一体となった支援ができるように、また顔の見える関係づくりを目的として実施する。

2. 実施主体

健康推進課（令和2年度から開始）

3. 内容

回	内 容
1	<p>令和3年8月3日</p> <p>① 各機関の役割：担当から取り組み内容や課題を意見交換。</p> <p>不登校、ひきこもりには本人の課題(不安、発達障害等)、家族背景、学校や職場の問題等要因が多くあり、長期化するほど支援にも時間が要する。本人と家族の閉鎖的な環境に風穴を開け、粘り強く継続的な支援が必要。</p> <p>② 事例共有：健康推進課と他機関で支援している2事例を共有し、支援の方法、方向性などを話し合う。</p>
2	<p>令和3年11月10日</p> <p>① 北名古屋市家庭支援課教員OB伊藤省三先生による講話</p> <p>小学生から大人までの不登校・ひきこもりの一貫した支援を実施しており、専任の職員を配置し、親支援、本人支援を丁寧に実施している。</p> <p>② 事例共有：継続支援の報告</p>
3	<p>令和4年2月2日</p> <p>“き～ぼうの間”（地域で不登校・ひきこもり支援を実施）主宰太田さんによる取り組み紹介</p>

4. 出席機関

清須市役所

〔学校教育課、生涯学習課、高齢福祉課、社会福祉課、健康推進課〕

清須保健所、清須市社会福祉協議会、地域関係者

5. 会議を実施して

関係機関が集まることで、これまで埋もれていたひきこもりの実態について出席機関で共有でき、担当課として何ができるか、を考える機会となっている。健康推進課、学校教育課は支援を必要とする人を把握しやすいが、単独での支援はできず、関係機関が連携することが重要である。本人の特性、家庭環境、ひきこもりの期間などにより支援方法が異なるため、アセスメントし支援の方向性を考えている。